

ポートフォリオうんちく (6)

これまでの題材でポートフォリオの基本についてよく理解できたと思います。今回から著者が選手交代しましたので、もう一度、復習も兼ねてポートフォリオについて学習しましょう。ポートフォリオを構成する主要な3つの要素に証拠資料、共同作業、省察があります。今回は

証拠資料の記録はどうしたら良いか？について考えてみたいと思います。証拠資料を残すことは簡単なようですが、正確な服薬指導記録や研究発表にもつながる薬剤師の重要な知識・技能の1つです。

〔今号から「ポートフォリオうんちく」、「添削コメント」は、北海道大学大学院薬学研究院 柴山良彦准教授が担当いたします。〕

**「道薬誌」本号(1月号)『話題のクスリ』についての実践記録**

テーマ	抗リウマチ剤 ケアラム錠®	学習目標：この薬の臨床試験と適正使用
	<p><b>特徴：</b>国産で新規のDMARDs。化学構造上、既存の抗リウマチ薬と異なる。MTX 効果不十分例への上乗せ併用のエビデンスを有する薬剤。</p> <p>・・・リウマチ治療の選択が広がり、MTXのガイドラインも変わるだろうな。</p> <p><b>適応症 関節リウマチ</b></p> <p>・・・処方せんがきたら初回時の確認と、4週間以上後に増量されているかチェック。もちろん相互作用のチェック。臨床検査値異常のチェック。特に肝機能は要注意。</p> <p>・・・患者さんと確認できる項目は？「炎症を抑えられたか？関節の痛みが改善したか？腫れがよくなったか？」という3つの目標を評価しよう。</p>	<p>臨床試験のおさらい：①単剤投与で、プラセボに対する優越性(治療効果は投与8週後から発現) ②サラゾスルファピリジンに対する非劣性 ③メトトレキサート効果不十分例に対する上乗せ併用における国内初の有効性のエビデンスを有しており、プラセボ+MTX群に対して優越性が認められている。</p> <p>・・・ACR20って何だっけ？                  関節リウマチの客観的臨床評価方法。ACR(米国リウマチ学会：American College of Rheumatology)が提唱したACRコアセット①～⑦のうち、①圧痛関節数および②腫脹関節数が20%以上改善し、かつ③～⑦の5項目中少なくとも3項目で20%以上改善した患者の割合。①圧痛関節数 ②腫脹関節数 ③患者による疼痛評価 ④患者による疾患活動性全般評価 ⑤医師による疾患活動性全般評価 ⑥患者による身体機能評価 ⑦CPRまたはESR</p>

・・・ブルーレーター出てたよね。(2013. 05)  
ワルファリンとの併用で死亡例あり。当然、相互作用の確認。リウマチの患者さんには、非ステロイド性消炎鎮痛剤多いよな。(併用注意)有害事象の回避に全力!!

・・・今後の課題  
当院は、リウマチ専門医2名いるので処方増える可能性あり。現在の使用は、2名で始めたばかりなので増量後の経験なし。今度もモニタリング続けていこう。

### 添削コメント

ケアラム錠の特徴について著者が学習し、注目した点について要領よくまとめたポートフォリオと思います。学習目標、学習した内容と今後の課題がそれぞれ関連付けられているポートフォリオですね。実際の調剤時に注意すべき点も記載してあってとても良い学習記録になっていると思います。

さて、記録の書き方ですが、服薬指導記録と同様に記録すべき要点をまとめ、正しく再確認できるように記録することでポートフォリオの質が向上します。理科系の証拠は変数として記録しますが、変数には4つの種類：連続変数、順序変数、2元変数、名義変数があります。調剤時に注意すべき点として「相互作用のチェック」と記載がありますが、この記録では後日読み直した時に、どのような薬の相互作用をチェックしなければならないか再度調べる必要が生じるかもしれません。この記録は「2元変数」相互作用がある・なしの情報になります。例えば「ワルファリン」などの薬品名を記載しておけば「名義変数」としての記録になります。ほかに、BUNの実測値は連続変数、BUNのグレード変化は順序変数、肝機能悪化のある・なしは2元変数となりますが、それぞれ2元変数→順序変数→連続変数の順で記録の精度が上がりますので、どの精度で記録を残すべきか考えてみると、もっと良い記録につながると思います。

北海道大学大学院 薬学研究院  
臨床薬学教育研究センター 准教授 柴山 良彦

## 国試問題を解いてポートフォリオを書いてみよう!

### ◆ JPALS 国家試験問題 ◆

問1 保険薬局において医師への照会対象となる処方内容はどれか。1つ選べ。  
ただし、監査項目欄に示した項目以外に疑義はないものとする。

	処 方	監査項目
1	ドンペリドン錠10mg 1日3回 朝昼夕食前	1回1錠 (1日3錠) 14日分 投与日数
2	ファモチジン錠20mg 1日2回 朝食後・就寝前	1回1錠 (1日2錠) 45日分 用法
3	アシクロビル錠400mg 1日5回 朝昼夕食後・午後3時・就寝前	1回2錠 (1日10錠) 5日分 用法
4	アカルボース錠100mg 1日3回 朝昼夕食直前	1回1錠 (1日3錠) 45日分 用法
5	トリアゾラム錠0.25mg 1日1回 就寝前	1回1錠 (1日1錠) 45日分 投与日数

問2 薬剤師の任務は薬剤師法第1条に規定されている。この条文の( )に当てはまるのはどれか。1つ選べ。  
「薬剤師は、調剤、医薬品の供給その他( )をつかさどることによって、公衆衛生の向上

及び増進に寄与し、もって国民の健康な生活を確保するものとする。」

- 1 医薬品管理      2 地域医療
- 3 薬事衛生        4 医薬品開発
- 5 医薬品適正使用

▶ 解 説 ◀

問1 解答：5 第98回薬剤師国家試験  
一般問題(薬学実践問題実務)  
より

解説：1・特に投与日数の制限は設けていないため、疑義照会対象ではない。  
2・胃潰瘍等に用いる際の用法であると考えられ、疑義照会対象ではない。  
3・带状疱疹に用いる際の用法であると考えられ、疑義照会対象ではない。また、単純疱疹に用いる場合は、通常成人にはアシクロビルとして1回200mgを1日5回経口投与する。

4・糖尿病の食後過血糖の改善に用いる際の用法であると考えられ、疑義照会対象ではない。通常成人にはアカルボースとして1回50mgより投与を開始し、忍容性を確認した上で1回100mgへ増量することも可能である。  
5・疑義照会対象である。投与日数は30日制限とされている。

問2 解答：3 第98回薬剤師国家試験  
必須問題(実務)より  
解説：薬剤師法第1条